

2022年6月23日所長会見 所感

- 福島第一原子力発電所の事故により、今もなお、大変多くの皆さまに、ご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、また、「核物質防護事案」や「安全対策工事の一部未完了」につきまして、地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに、大変なご不安・ご不信を抱かせておりますことについて、深くお詫び申し上げます。
- ここからは着席してお話しさせていただきます。
- 本日は、私からは2点お話しいたします。まずは、1スライド目をご覧ください。
- 防護直員との対話を受けての取り組みについてです。
- 一連の核物質防護事案における根本原因の一つである「現場実態の把握の弱さ」への対応として、私やセキュリティ管理部長をはじめとした管理職が頻繁に現場を訪問しています。
- 加えて、現場の防護直員との積極的な対話により課題の抽出に努めております。
- 3月30日の会見では、防護直員との対話で寄せられた声からの改善事例として、冬場の雪かき対応に関する事例をご紹介いたしました。
- 本日は、夏場の対応に関する改善事例を1件ご紹介いたします。
- 防護直員との対話の中で「夏場において、核物質防護設備まわりの草刈りを防護直員が実施している。しかしながら、敷地が広大で作業の負担が大きいため、他のセキュリティ管理業務に影響が出ないか心配」との声を聞きました。

- その声を受け止め、これまで、核物質防護設備まわりの草刈りについては、防護直員が担当しておりましたが、その他の箇所と区別せず発電所全体の草刈りを一括で行う運用に変更いたしました。
- その結果、防護直員からは「運用変更により負担が軽減した、監視業務がやりやすくなった」等の声をいただいております。
- 今後も、私が率先して、防護直員や所員の意見を受け止め、発電所運営に活かしてまいります。
- 次に2スライド目をご覧ください。「柏崎刈羽原子力発電所の志」の実践についてです。
- 先月、ご紹介した当発電所の「志」では、「みんなが誇りを持って、笑顔で生き活きと働く発電所」を目指すと掲げております。
- その一環として、発電所全体のコミュニケーションを促進するため、本年4月下旬から「朝のあいさつ運動」を開始しています。
- 今朝も実施したところでございますが、この「あいさつ運動」は、私を含めた発電所員とUKビルの本社社員が、正門や出社バス降車場所等に立ち、本日を含めて27回実施しています。
- 所員からは「あいさつが活発になり、所内のコミュニケーションが取りやすくなった」という声をもらっており、あいさつ運動に参加した幹部からは、「協力企業の方も含めて、始めた時に比べて元気なあいさつを返してくれるようになった」と聞いており、私自身もまさにそのような変化を実感しているところです。
- このあいさつ運動については、先週開催された第5回核セキュリティ専門家評価委員会において、板橋委員長から、「核セキュリティ部門以外の所員が正門に立って、見張り人の皆さんの現状を知ること、核セキュリティへの理解を深め、核セキュリティ文化の醸成にも繋がる良い取り組み」とのお話をいただいております。

- 引き続き、現場・現物・現実に基づき業務を一つひとつ改善し、成長し続けたいと考えております。
- また、目指す姿として「志」には「地域を愛し、地域に愛される発電所」とも掲げており、地域の一員として地域活動に積極的に参加をしている内容についてご紹介します。
- 先日、柏崎市で開催された「えんま市」には、私も若い頃から参加させていただいております。その「えんま市」の翌日に地域の皆さまが行う清掃活動に、原子力・立地本部長の福田や私を含め、社員約30名で参加いたしました。
- 雨が降る中ではありましたが、地域の皆さまと一緒に汗をかき、声をかけあう貴重な時間となりました。
- 引き続き、地域活動には私自身も率先して参加し、地域の皆さまの率直なお声をお聞きし、発電所運営に活かしてまいりたいと考えています。
- そして、信頼される発電所に向け、今後も「志」の実践を積み重ねてまいります。
- 私からは以上です。